

植物に与える音の効果の実験

「実験の目的」

自然音/癒しの島「屋久島」の CD を流し続けた室内に、水を換えたり補充することなく放置した植物と、音のしない室内に同じく水を換えたり補充することなく放置した植物の変化と器の中の水の変化を比較する。

「実験方法の概略」

ほぼ同じサイズ（約 13.2m²）の二つの室内環境を使用し、採光も同じ量、温度、湿度も同じ条件で実験。一方の室内には自然音/癒しの島「屋久島」の CD を 24 時間流し続ける。菊の花 16 本を 8 本ずつに分けを同じ透明の器に入れ、同じ量の水（約 1700cc）を入れる。花の量や葉の数など同じ量のものを均等に二分する。二つに分けた菊の花をそれぞれの室内に設置し、放置する。

菊は茎の微生物により水が濁りやすく、水も茎も腐りやすい花といわれている。



最初の花瓶の水の量は約 1700cc
水は普通の水道水を使用

「実験に使用した音」
癒しの島「屋久島」中田悟 PICW-1020
せせらぎの自然音を小さく流す

「実験に使用した CD プレーヤー」
一般のラジカセ (aiwaCSD-A100)

2005.11.22 同じ状態の菊の花を花瓶に入れ実験開始



2005.12.25 33日経過、自然音を聞かせた菊



2005.12.25 33日経過、何もしない菊



2006.1.9 48日経過
右が自然音を流した室内の菊



2005.12.28 36日経過
自然音を流した室内の菊、新芽が生えてきた

「まとめと考察」

同じ状態の菊を同じサイズの花瓶（水の量約1700cc）に入れ、音のある室内と音のない室内で48日間放置した結果

- ①花瓶の水の濁り具合、水の腐敗状態、水の量に変化が見られた。
 - ②葉の残量と茎の新芽 に変化が見られた。
- ① 自然音を流し続けた室内の花瓶の水は最後まで透明で濁らず、水の消費量は多く、水の残量は約150cc。
何もしない環境の水は茶色く濁り、序々に腐敗していき、音を流した方と比べ水の消費量は少なく、水の残量は約750cc。
- ② 自然音を流し続けた室内の葉は緑が多く残り、その影響もあり水を吸い上げる力も強い。
代謝機能が働いている。また茎に小さな新しい芽が沢山生えている。
何もしない室内の葉は枯れてしまい、茎はつるつるの状態で、新しい芽は生えていない。

48日間経過後そのまま放置し音のある室内の水が無くなってしまい、水がなくなった花瓶に、水道水を上から補充する。
その翌日自然音を聞いていた緑色の葉が黄色く変色してまった。原因は不明だが、音を聞くことで水そのものの質が変化し、植物にとっていい状態の水に変化した可能性が高い。一方、後から加えた蛇口からとった水は、塩素のせいか水が植物の生命にはいい状態の水ではないものの可能性が高い。

2006.2.15 サウンドヒーリング協会
The Society for Sound Healing